常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ

令和　４年　４月 28 日(木)
通算 223 号

◇ 鮎 と 鯉のぼり と

4/21(月)　今年も岡崎漁協の協力を得て、学校前の青木川で「鮎の放流会」。

今年のアユは「稚鮎（ちあゆ）」というよりも「小ぶりな鮎」。サイズは例年より二回り大きい。活力があり、小バケツに移し入れた鮎が、勢いよく跳ねて飛び出るほどだ。

この日は夏日を記録した陽気で水温も高め。例年なら、児童が川べりに並び、一斉に放流する姿が見られるが、今年は６年生を先頭にじゃぶじゃぶと川に入り、鮎が気持ちよく泳ぎそうな場所を各々が選んで、思いを込めて小鮎を放流した。

素晴らしかったのは６年生。さりげない行動が心を温かくする。
まずは、漁協の方へのお礼の挨拶の場面。

児童を代表してお礼の言葉を述べたのは６年生のＨ治さん。
鮎放流の対応のお礼に加えて青木川を守る誓いを添えた。
これには漁協の方も心を打たれたようで、あとからお褒めの言葉を授かることになる。

そして、これで終わらないのが６年生のすごいところ。５年生以下の児童が教室に戻る姿を気にも留めず、向かった先はもう一度青木川。清掃が始まった。
言葉だけでは終わらせない。６年生 10 名全員で、Ｈ治さんの言葉を具現した。

聞くところによると、６年生の総合的な学習のテーマは「青木川を守るプロジェクト」。始まったばかりの学びではあるが、Ｈ治さんの言葉と児童の行動により、私事（わたくしごと）と捉える真の学びへと転換していく兆（きざ）しが見えた。
漁協の方の話によれば、川がきれいであれば、鮎が根付いて根付いて生息する可能性もあるとのこと。６年生の行動・学びだけに留めず、学校全体の取組・学びとして広げていく構想が見えた。「灯（ひ）」から「炎（ほのお）」への転換である。

さて、数日後に、子供たちが鮎を放流し、清掃した青木川の上空を鯉群が舞う。

この時期になると、各所で同様の試みがあり、報道でも目にする機会が多い催しではあるが、本校学校前の鯉群は、それらと一味異なる。

川の真上を泳ぐのだ。風の抜けも最高。まさに悠々と泳ぐ様は、我々に勇気をくれる。